

卓話者：柴橋 正直 衆議院議員 様



<卓話原稿>

民主党政権の基本方針は、「税金の無駄遣いをなくす」「官僚主導から政治主導へ」「中央集権から地方分権へ」。まずは、補正予算の見直しを行い、現在 2 兆 5,000 億円見直した。今後の課題は、政策実現のために来年度 7 兆 1,000 億円の財源を生み出すことだ。必ず実現する。関心をもっておられる問題として、モラトリアム法案についてお話したい。亀井大臣が「3 年間返済を猶予する」と発言したが、猶予の範囲や方法が決まっておらず、様々な議論を呼んだ。3 党連立の合意は、「貸し渋り、貸しはがし防止法」の早期成立であり、これはあくまでも借入の条件変更を促す努力規定。大臣の発言と 3 党合意には乖離がある。過去、モラトリアムが行われたのは、1923 年関東大震災、1927 年金融恐慌、1995 年阪神大震災の 3 回だけ。古巣の三菱 UFJ 銀行の関係者にヒアリングした。かつては、「何故この企業に融資したのか」という金融庁検査のスタイルが、今は「何故この企業に融資しなかったのか」というスタイルに変化した。金融庁マニュアルも積極的に融資する方向に変わってきている。返済を猶予した債権を、仮に不良債権に分類しなくて良いとしても、海外の投資家から邦銀の資産が腐っていると見られ、資金が流出する可能性がある。最終的には、信用保証協会を使うなど、現実的な法案になるのではないか。